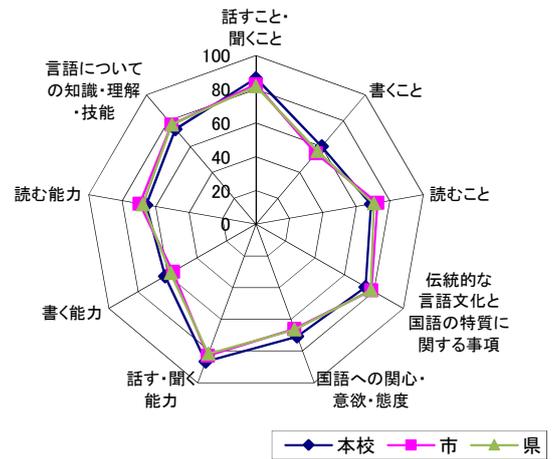


宇都宮市立東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	86.6	82.9	81.8
	書くこと	60.2	54.8	56.5
	読むこと	68.7	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.5	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	70.8	66.0	66.4
	話す・聞く能力	86.6	82.9	81.8
	書く能力	61.7	56.3	57.9
	読む能力	65.6	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	73.7	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

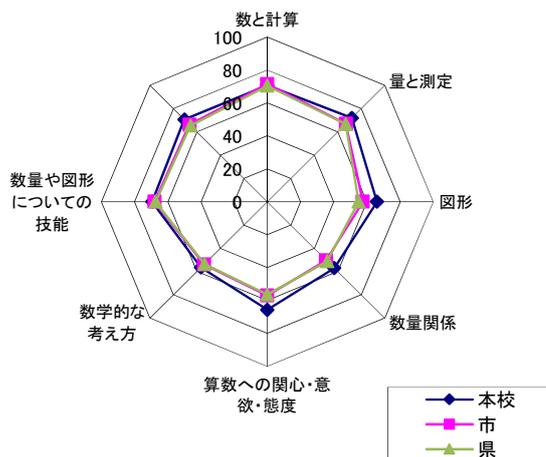
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より3.7ポイント上回っている。</p> <p>○「話の中心に気を付けて聞きとること」「話し方の工夫に注意して聞きとること」については、市の平均より約3ポイント上回っている。</p> <p>●参加者の発言の内容をまとめる問題では、まとめる内容が不十分であったり、文脈に沿っていない回答が25.8%あった。</p>	<p>話し手の意見を理解しながら聞いたり、自分の考えと比べながら聞いたりすることができるように指導していく。話し合いの機会を多く取り入れ、司会者として話し合いで出た意見をまとめる経験を通して、内容にあったまとめ方ができるよう指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より5.4ポイント上回っている。</p> <p>○「指定された長さで文章を書くこと」については、市の平均を12.2ポイント上回っている。</p> <p>○「書こうとすることの中心を明確にして文章を書くこと」については、市の平均を17.9ポイント上回っている。</p> <p>●「意見をもとに、ポスターの文章を書くこと」については、市の平均を7.6ポイント下回っている。また、「情報を適切に読み取り、ポスターの文を書くこと」についての正答率は、市の平均を上回ったものの、37.1%と低い値であった。</p>	<p>文字数、書き方、書く内容などの条件に合った書き方が意識できるように、国語を中心に各教科・領域の中でも指導していく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均を3.9ポイント下回っている。</p> <p>○下線部が何を示しているかなど、文章の内容の読み取りについては、正答率が77.4%と高い値であった。</p> <p>●「段落のまとまりを理解して文章の内容を的確に読み取ること」については、正答率が38.7%と低い値であった。</p>	<p>物語文の全体を捉えて読んだり、登場人物の気持ちの変化をつかみながら読み進めたりすることで、直接文章に現れない登場人物の気持ちを考えることができるように指導していく。また、説明文を読んで、段落のまとまりを考えたり、文章の内容を適切に読み取ることができるように指導していく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を3.9ポイント下回っている。</p> <p>○「漢字の読み書き」については、市の平均を上回っているものが多いが、漢字によっては、市の平均を大きく下回っている。</p> <p>●「文の構成(連体修飾語)」については、市の平均を12.9ポイント下回っている。</p> <p>●「漢字辞典の使い方」については、市の平均を19.6ポイント下回っている。</p>	<p>国語を中心とした各授業や家庭学習を通して、漢字の反復練習を行う。修飾語の理解のため、練習問題などを行う。漢字辞典の使い方を再確認するとともに、漢字辞典を使う機会を増やし、部首画数と総画数などの言葉を押さえる。また、新出漢字の学習の際には、部首を確認していくようにする。</p>

宇都宮市立東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.6	71.5	70.4
	量と測定	72.0	67.0	66.9
	図形	66.1	57.6	55.0
	数量関係	57.0	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	65.6	57.0	56.3
	数学的な考え方	56.5	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	69.4	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	70.7	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

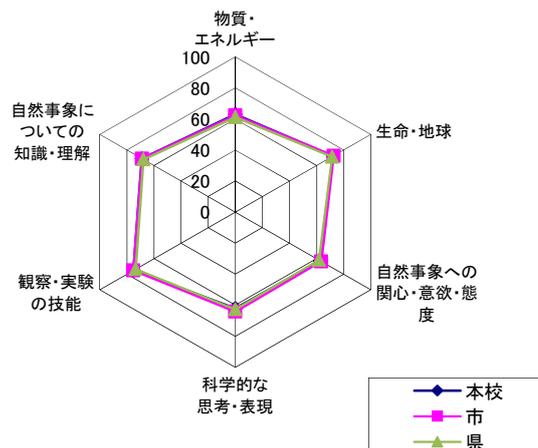
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は市の平均とほぼ同程度であった。</p> <p>○小数第一位×整数の計算問題では、市の平均正答率を11.9ポイント上回った。</p> <p>●小数第一位—小数第二位の計算問題では、市の平均正答率を16.4ポイント下回った。</p>	<p>基本的な計算の定着に向けた繰り返し練習を継続していくとともに、見直しの姿勢を身に付けていけるよう、確認作業も活動に入れていく。特に、「小数のたし算、ひき算」では、小数の仕組みをもとに計算できるとともに、位と小数点をそろえながら確実に計算できるよう、子ども自身で考えながら説明したり、繰り返し練習問題に取り組んだりしながら、定着を図っていく。</p>
量と測定	<p>平均正答率は市の平均を5.0ポイント上回った。</p> <p>○特に、身近にあるもののおよその面積を求める設問では、市の平均正答率を10.0ポイント上回った。</p>	<p>複合図形の面積を求める学習では、多様な解決方法を生み出し、考察する活動を通して、筋道を立てて考えられるようにしていく。また、身のまわりの長方形や正方形の面積の求め方を考えるにおいて、机や教室、学用品などの面積を予想してから求めたり、100cm²や100m²などに近い面積のものを探したりする活動を通して、面積の大きさについての量感が育めるようにしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は市の平均を8.5ポイント上回った。</p> <p>○特に、ひし形を作図する設問では、全児童が正答し、市の平均正答率も20.0ポイント上回った。</p>	<p>図形を用いて自分の考えを説明する力を高めるために、図で表す活動や、図を読み取る活動を積極的に取り入れるとともに、学習したことを復習する機会をより多く設ける。また、特別な三角形(正三角形、二等辺三角形)や特別な四角形(平行四辺形、ひし形)の概念について再確認し、図形に関する基礎的な知識を深めていく。</p>
数量関係	<p>平均正答率は市の平均を6.8ポイント上回った。</p> <p>○「伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める」設問では、市の平均正答率を11.2ポイント上回った。</p> <p>●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」設問では、市の平均正答率を7.7ポイント下回った。</p>	<p>解き方を説明する力を身に付けるため、自分の考えをまとめ、発表する活動を積極的に取り入れていく。特に、「変わり方」の学習において、具体的な場面において、伴って変わる2つの数量があることに着目し、表に表したり、○や△を使った式に表したりしながら、一般的に言える決まりを明らかにするよう取り組んでいく。式に表す活動では、場面について図で表したり、言葉の式をもとにしったりしながら、○や△を使った式に表せるようにしていく。</p>

宇都宮市立東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.0	62.4	61.1
	生命・地球	72.2	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.7	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	62.0	64.1	62.6
	観察・実験の技能	75.1	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	68.9	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同等である。</p> <p>○「物の体積と力」では、空気や水をとじこめ押し縮めた時の手ごたえや体積の変化についての問題においてすべて8～9割程度の正答率であり市の平均を上回った。また、「物のあたまり方」では、市の平均よりも正答率が大幅に高く、空気、水、金属のどの物質のあたまり方もよく理解されている。特に空気の性質については、市の平均53.8%に対し、本校は、77.2%であった。「電流」についての理解では、市の平均約50%に対し本校の正答率は約84%と大きく上回った。</p> <p>●「物の体積と温度」「水のすがた」などの問題では、変化については理解しているが、空気や水の体積の変化の量の変化としてしまった児童が目立った。全体的に確かな理解と記述回答等における課題がみられる。</p>	<p>・仮説をしっかりと立て、たくさんの児童が興味をもって実験を行うことができた内容についての理解度はとても高い。今後も実験を行う前に「根拠をはっきりと、自分なりの考えを持つこと」を大切にして授業を展開していく。また、考察において「結果」と「考え」を区別させるとともに、大切な言葉を意識してまとめられるようなキーワードを示すなどし、記述でまとめる活動を多く取り入れるようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同等である。</p> <p>○「星」の学習においては市の平均を上回り、特に星座早見の正しい使い方については、90%以上の正答率であった。また、「自然の中の水」の内容については、すべての問題で市の正答率よりも高く、特に蒸発に関わる問題では、13ポイントと大きく上回った。</p> <p>●「月」の学習においては、正答率が市の平均よりやや低く、月の形や動き方に対する理解、観察記録用紙上での方位の推測等課題である。</p>	<p>理科の授業だけでなく、日常生活や他教科と関連させ、自然に触れる体験を多く取り入れて、観察等の機会を増やしたり、学習内容に関連する身近な自然現象についても意図的に考える機会を増やし、起こる原因についての理解を深めたりする。</p> <p>星に関する学習では、一人一人が星座早見を所有し、長期休みなどを利用して観察を行ったことにより理解を深められたと思う。授業で観察の仕方を十分に理解させるとともに学校で観察できないものについては、実体験が理解につながるように、これからも家庭との連携を図ってきたい。</p>